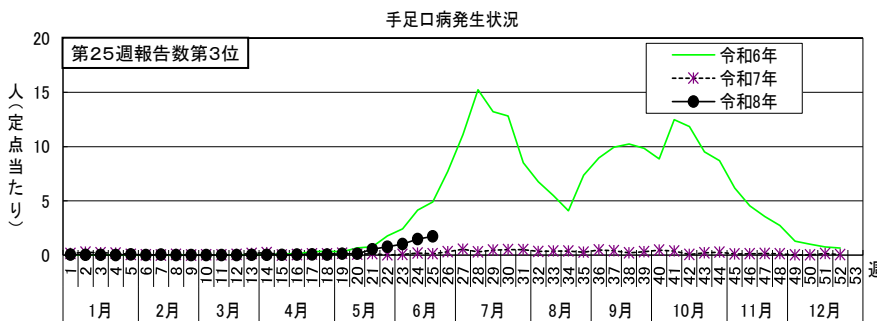
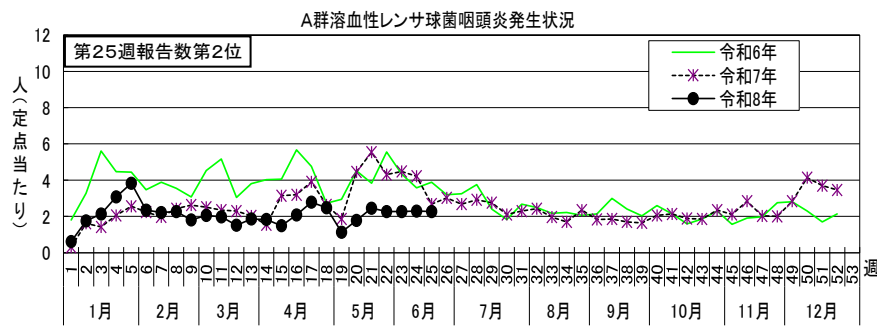
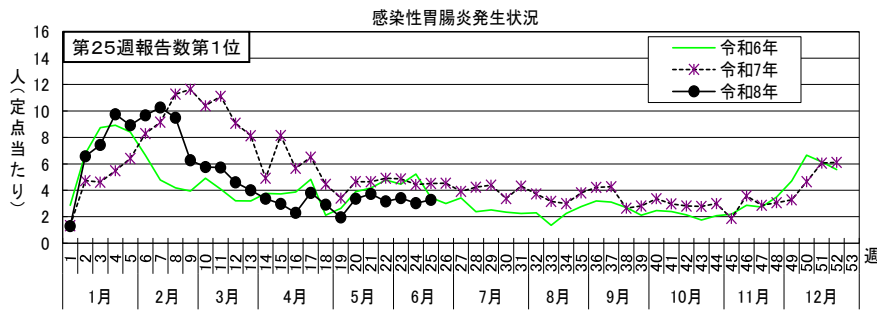


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和8年6月15日（月）～令和8年6月21日（日）〔令和8年第25週〕の感染症発生状況

第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 手足口病でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は3.27人と前週（3.03人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.27人と前週（2.30人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 手足口病の定点当たり患者報告数は1.73人と前週（1.49人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。



ヘルパンギーナの報告数が徐々に増加しています！

ヘルパンギーナはコクサッキーウイルスなどを原因とする感染症で、主に5歳以下の小児で流行する夏風邪の一つです。川崎市における令和8年第25週（6月15日～6月21日）の定点当たり報告数は0.89人となり、4週連続で増加しています。

典型的な症状は、急な発熱及びのどの奥に現れる複数の水疱と、それに伴う激しい咽頭痛です。高熱とどの痛みにより食欲不振となり、乳幼児では脱水を起こすこともあるため、こまめな水分補給が重要です。予後は比較的良好ですが、症状改善後も便中にウイルスが排出されるため、特におむつの交換後は石けんによる手洗いを行うなど、基本的な感染対策を徹底しましょう。

ヘルパンギーナとは？

感染経路：飛沫感染、接触感染、糞口感染

潜伏期間：2～4日

症状：突然の高熱（38～40℃）、のどの痛み、のどに水疱性の発疹や潰瘍

※発熱時に熱性けいれんを伴うことがありますが、ほとんどは予後良好です。まれに髄膜炎、心筋炎等を合併することもあります。

注意点

症状改善後も約1か月にわたり便中にウイルスが排出されますので、特にトイレやおむつ交換の後は、流水と石けんで念入りに手を洗いましょう。

川崎市におけるヘルパンギーナの発生状況
 -令和4年第1週～令和8年第25週-

